

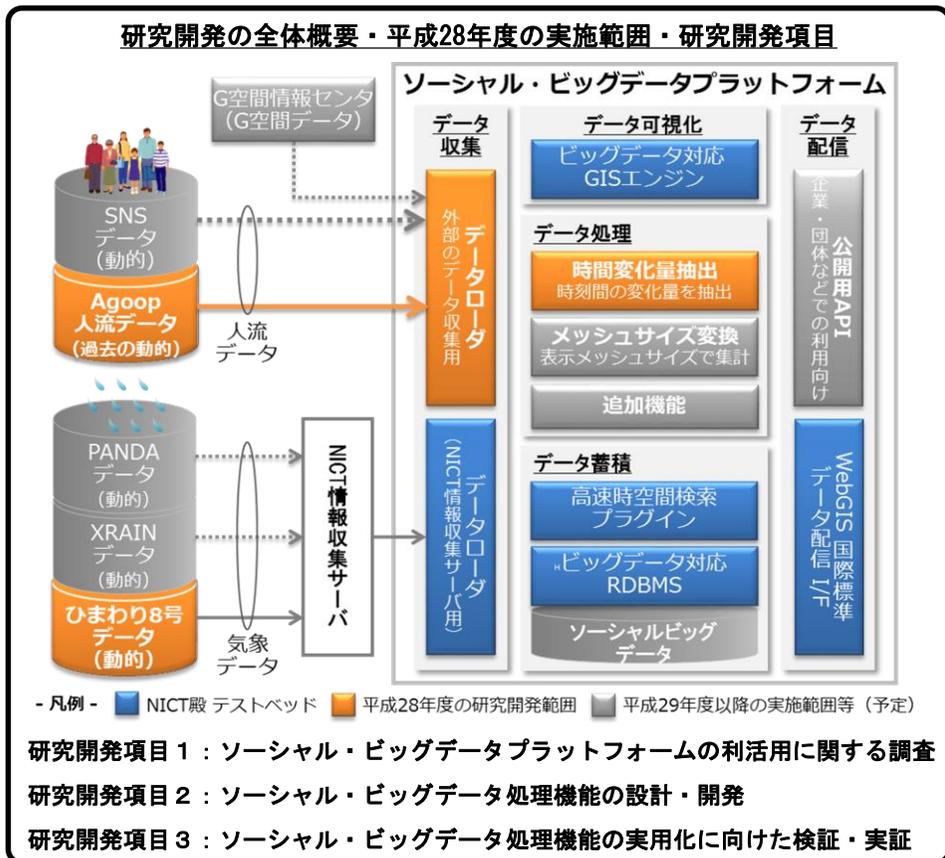
1. 研究課題・実施機関・研究開発期間・研究開発予算

- ◆課題名 : ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤技術の研究開発
- ◆個別課題名 : 課題B 新たなソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤技術の研究開発
- ◆副題 : G空間データのリアルタイム・ビッグデータ収集・処理基盤の研究開発
- ◆実施機関 : (株) 日立製作所
- ◆研究開発期間 : 平成28年度～平成30年度 (3年間)
- ◆研究開発予算 : 総額75百万円 (平成28年度25百万円)

2. 研究開発の目標

本研究開発では、ソーシャル・ビッグデータの利活用拡大を実現するため、ソーシャル・ビッグデータをより有効に利活用する為の共通機能を開発し、実証実験を通してソーシャル・ビッグデータが社会や利用者に役立つ事を示す。

3. 研究開発の成果



平成28年度の研究開発成果

研究開発項目 1 : ソーシャル・ビッグデータプラットフォームの利活用に関する調査

- 平成28年度目標
3年目の追加機能開発に向け、想定利用分野（観光・防災）におけるソーシャル・ビッグデータプラットフォーム（以下、SBD-PF）の利活用シーンと求められる機能を調査する。
- 平成28年度成果
ヒアリングによって得られたユースケースやそれに基づいて想定される必要機能等を検討・リストアップし、4つのカテゴリ14の想定機能に集約・整理した。

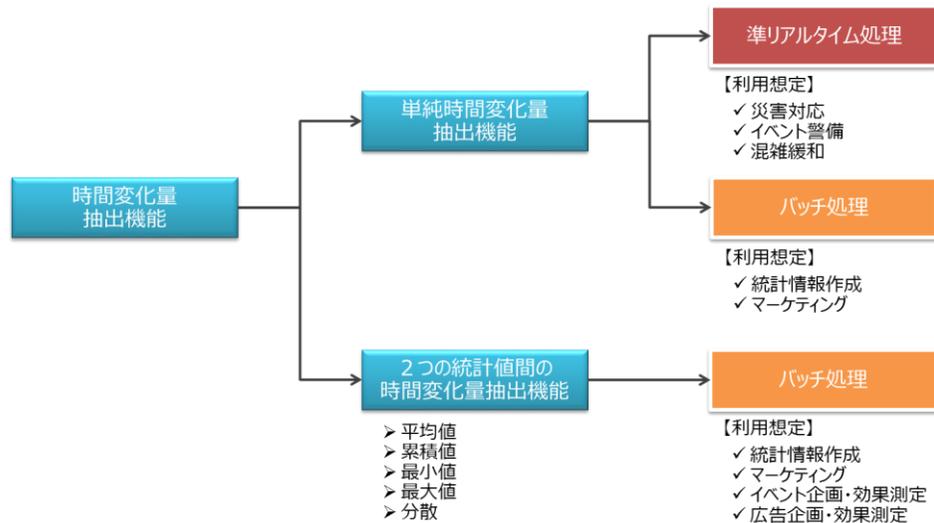
研究開発項目 2 : ソーシャル・ビッグデータ処理機能の設計・開発

- 平成28年度目標
SBD-PFの設計・構築、時間変化量抽出機能の設計・開発を行い、SBD-PF上に時間変化量抽出機能を実装した検証システムを設計・開発する。
- 平成28年度成果
 - ✓ 時間変化量抽出機能（準リアルタイム単純時間変化量抽出、単純時間変化量抽出、2つの統計値間の時間変化量抽出）を開発した。
 - ✓ 検証システムとAgoop社の流動人口データを用いて、時間変化量抽出機能の動作確認や性能計測を行い、実用的な機能を実現していることを確認した。

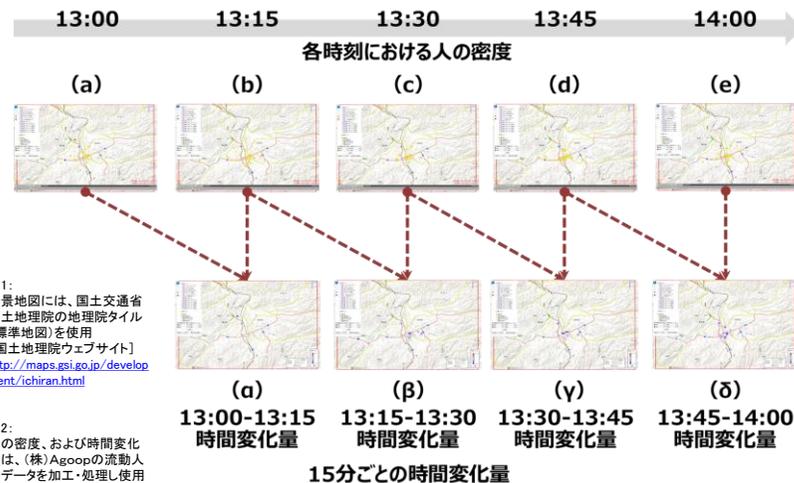
研究開発項目 3 : ソーシャル・ビッグデータ処理機能の実用化に向けた検証・実証

- 平成28年度目標
検証システムを用いてソーシャル・ビッグデータをより有効に利活用する為に必要と想定される時間変化量抽出機能を検証
- 平成28年度成果
 - ✓ 検証では、時間変化量抽出機能を活用することで、平日、休日、特異日での違い（渋滞や混雑箇所）を分かり易く可視化することができた。
 - ✓ デモンストレーション・ヒアリングでは、開発した機能が時間変化を伴うソーシャル・ビッグデータの利活用には有効であることが確認でき、またヒアリングの中で、4つのカテゴリ10の要望機能を抽出することができた。

3. 研究開発の成果（研究開発項目2の詳細）



準リアルタイム単純時間変化量抽出結果(例)※1 ※2
 (上段:各時刻の人の密度、下段:時間変化量)



4. これまで得られた成果(特許出願や論文発表等)

| | 国内出願 | 外国出願 | 研究論文 | その他研究発表 | プレスリリース 報道 | 展示会 | 標準化提案 |
|---------------------------|----------|----------|----------|----------|---------------|----------|----------|
| ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤技術の研究開発 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |

※成果数は累計件数、()内は当該年度の件数です。

5. 今後の研究開発計画

| 研究開発項目 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|---------------------------------|--|--|
| 研究開発項目1 SBD-PFの利活用に関する調査 | 平成28年度の調査結果を踏まえ、共通性や実現性などが高い機能を3年目のSBD-PFの追加機能として抽出する。 | — |
| 研究開発項目2 SBD処理機能の設計・開発 | 平成28年度は、過去のプロジェクトからSBDをより有効に活用する為に必要と想定される共通機能のうち、メッシュサイズ変換機能、公開APIを設計・開発する。 | 平成29年度の検討結果から追加機能を設計・開発する。またSBDの有効性を実証するための実証システムを設計・開発する。 |
| 研究開発項目3 SBD処理機能の実用化に向けた検証・実証 | 検証システムを用いて開発したメッシュサイズ変換機能、公開APIの検証を行う。また平成30年度の実証実験の具体化や連携先との調整等を実施し実証実験計画を立案する。 | 平成29年度の実証実験計画に基づき、実証システムを用いた実証実験を実施する。 |